

[優秀賞]

「一つの願い」

江別市立大麻東中学校

3年 木葉 あさひ

「あなたは北方領土を知っていますか。」私が誰かにこう聞かれたら、迷わず答えるだろう。「はい。知っています。」と。

北方領土については授業で受けたことがあり、島の名前や場所はしっかりと理解している。

しかし、今回、実際に元島民の話を聞いた時私は何も知らなかったのだと気づかされた。

今から、約七十年前、何前ぶれなく島に真っ黒い軍艦が現れ、日本人よりはるかに大きいソ連軍が銃剣やライフルを構え、上陸してきた。民家を襲い、金品を奪うソ連軍も多かった。島民はトイレの汚水が船内に流れる不衛生な船で樺太へ送られ、そのまま収容所へ入れられ、死ととなり合わせの日々をどうにか乗り切り、函館へたどり着いたのだという。

信じられるだろうか。考えただけでふるえあがるような出来事だ。だがこれは七十年前日本とソ連との間で実際に起こった現実なのだ。今もなお解決できておらず、返還運動やビザなし渡航が行われている。もし私が島民の立場だったら、故郷を奪われたことに対して怒りしかわき起こってこないと思う。

しかし、元島民の考えは違っていた。その考えを、話の最後に私たちに話してくれた。

「私達の願いはただ一つです。自分達の祖先がねむる墓に自由に訪れ、すごしてみたい。これだけなんです。」

この言葉を聞いて、私は元島民の思いと共に、北方領土問題の深刻さを感じた。そして、元島民の話を聞くという貴重な体験ができて、良かったと思った。今回の体験で、授業や教科書では知ることのできなかつた北方領土についてたくさん知ることができたからだ。

「あなたは北方領土を知っていますか。」

こう聞かれたら、やはり私は

「はい。知っています。」と自信を持って答えようと思う。そして、北方領土問題について少しでも知ってもらえるように元島民のたった一つの願いを伝えていこうと思う。